

## インドなど南アジア経済は2006年7.3%成長 07年は7.5%に上昇へ、アジア開銀予測

【香港 2006年4月6日】 アジア開発銀行（ADB）が6日公表した最新レポートによると、南アジアの成長率はインドとパキスタンの成長がやや減速する結果として2006年には7.3%に鈍化するが07年には7.5%に上昇すると予想される。この地域の05年の成長率は7.8%であった。

06年のこの地域の平均インフレ率は、一部石油製品に対する補助金の撤廃で国内物価が上昇する国があるため6.1%に上昇すると予想される。大部分の国では大幅な経常収支の赤字が予想されており、地域平均の赤字はGDPの3%と予測される。

ADBの代表的な年次経済刊行物の「アジア開発展望（Asian Development Outlook = ADO）2006年版」の公表に際してADBのチーフ・エコノミスト、イフザル・アリ氏は「南アジアが高い成長軌道へ移行することを示す証拠が増えている。しかし、将来の成長のためにはこの地域全体の改革を前進させなければならない」と述べている。

チーフ・エコノミスト、アリ氏は「主要経済におけるインフラ障害打破を目指した集中的な投資も中期的により力強い成長へ貢献するだろう」と述べている。

「アジア開発展望2006年版」は43のアジア途上国の全般的な成長率を06年は7.2%、07年は7%と予測している。

アフガニスタンは2005年、マクロ経済改革と構造改革による安定した実績を引き続き記録し、大きな混乱もなく選挙が実施された。成長率は2006会計年度で11.7%、2007会計年度で10.6%と依然好調が予測されている。インフレ率は今年が8%、07年には5%に下がると予想され、国家予算と国際収支では無償援助に対する高い依存度の減少が見られる。治安の悪化とアヘン貿易が国家建設を妨げているが、中期的成長見通しは良好である。経済を持続可能な基盤に向けて変革するためには、政府がその改革方針を堅持し、民間部門の活動を促進するためのより大きな努力が必要である。

バングラデシュのGDP成長率は内需と外需の着実な増大を反映して06会計年度は6.5%となるが、07会計年度にはやや低下して6%になると予測されている。国内石油製品価格の補助金が削減されるため、この期間のインフレ率は6%—7.5%程度に留まるはずである。継続的な出稼ぎ労働者による多額の送金のおかげで、経常収支の赤字はGDPの1%程度に留まるだろう。投資を拡大して、同国を急速な貧困削減に必要な高い成長軌道へ乗せるためには、大きな開発課題—インフラ、公共政策、ガバナンスの大幅な改善を含む—に取り組む必要がある。

---

### Media Inquiries Only

Yoshiji Makino  
Tel: +81 3 3504 3160  
Email: ymakino@adb.org

### Electronic versions of ADB news releases

ADB Online Media Center: [media.adb.org](http://media.adb.org)  
ADB web site: [www.adb.org](http://www.adb.org)

ブータンは膨大な水力発電資源の輸出向け利用、健全な政策、開発パートナーからの強力な支援に基づいて持続的な安定成長を達成した。GDP 成長率は、1, 020メガワットの Tala 水力発電プロジェクトが段階的に稼働するため、毎年約2%ポイント上昇して、06年には10%、07年には12%に達する見込みである。

インドの過去3年間の成長率は、幅広い国内需要と発展的な事業活力によって推進され、平均8%以上であった。国内石油補助金を削減するための価格調整と高めの金利によって消費と投資需要がわずかに抑制される結果、GDP 成長率は06会計年度に7.6%、07会計年度に7.8%と予測されている。構造改革を続けているため、インドは2つの大きな政策課題に直面している。第一に、工業とサービス業の発展を支えるインフラ改善への支出ならびに地方の生産性と人材開発を推進するための投資を確保しながら、財政状態の強化を維持する必要がある。第二に、ビジネスコストを引き下げて投資環境を改善する必要がある。

モルジブは2004年、健全な成長と国民一人あたりの所得の増大、賢明な政策を反映したマクロ経済指標を伴い、高い実績を達成したが、同年の津波で大きな被害を受け、05年のGDP 成長率は5.5%に低下したと推定される。GDP 成長率は06年が9%に伸び、07年には6%に低下する見込みである。

ネパールでは、天候に起因する稲作の減少、暴動によって生じた混乱、観光事業の低迷、引き続き弱い工業成長を反映して、05年には経済が低迷した。GDP 成長率は、冬季および夏季の作物生産に影響を与える悪天候のために、06会計年度は2.0%に低下すると予測される。07会計年度は、天候の回復と公共および民間投資の増大が見込まれており、成長率は3.4%に好転すると予測される。この見通しは暴動や政情不安によって左右される。

パキスタンの05年の成長率は8.4%で、過去20年間で最も高い成長率であったが、インフレ率も上昇し、経常収支が黒字から赤字に転落した。06会計年度の成長率は、主として農業生産の減少のために6.5%に下がり、07会計年度には7.3%に好転すると予測されている。金融政策の引き締めによりインフレ率は今年が8.5%、07年には7.6%に下がる見込みである。経済運営での堅調な実績の継続、インフラ障害を緩和するための投資増大、継続的な治安と政情安定を想定し、中期的見通しは良好で、約6-8%の成長が予測される。

スリランカ経済に対する津波の影響は、悲惨な人的被害にもかかわらず控え目なものであった。06年2月に行われた政府と「タミル・イーラム解放の虎」の協議が停戦状態の状況を全般的に改善した。そのため、GDP 成長率は06年が5.3%、07年が5.2%と予測されるが、これは長期トレンドに沿った実績である。補助金を削減するために石油製品と電力の管理価格が引き上げられるため、インフレ率は8-9%と引き続き高く推移すると予測されている。

マニラに拠点を置く ADB は、貧困削減に向けた持続可能な経済成長、社会的発展、優れた統治により、アジア太平洋地域における貧困削減に取り組んでいる。1966年に設立され、64カ国が加盟しているが、そのうち46カ国はこの地域の国々である。05年には総額58億ドルの融資と1億9,880万ドルの技術支援を承認している。

---

**Media Inquiries Only**

Yoshiji Makino  
Tel: +81 3 3504 3160  
Email: ymakino@adb.org

**Electronic versions of ADB news releases**

ADB Online Media Center: [media.adb.org](http://media.adb.org)  
ADB web site: [www.adb.org](http://www.adb.org)